

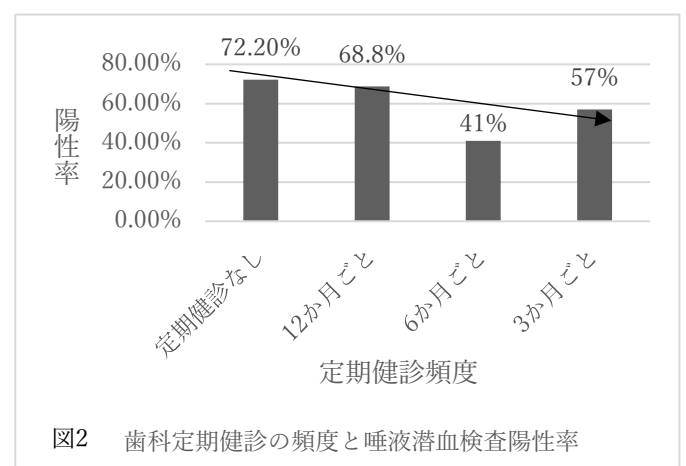
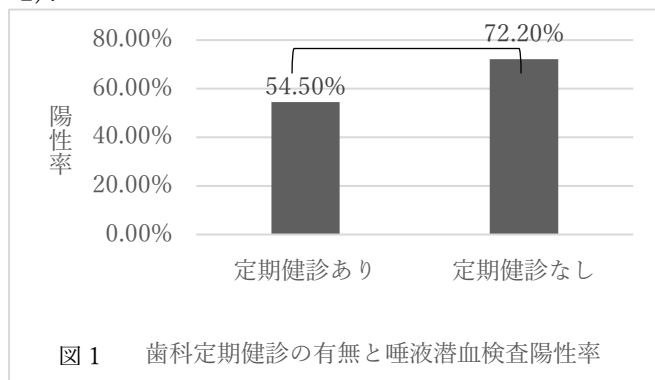
## 山形市民を対象とした唾液潜血検査と歯科定期受診の関連

○松田睦美, 波多野美月, 佐々木麻生, 三浦裕太郎, 熊谷佳奈, 酒井智子,  
川合尚子, 加藤裕一, 加藤丈夫 (山形市保健所シンクタンクチーム)

【背景・目的】唾液潜血検査は歯周病のスクリーニング検査として有用であることが報告されている(大島ら, 2001). 私達は, 唾液潜血検査の結果と自記式問診票の関連について, 自記式問診票の該当数が多くなるほど唾液潜血検査の陽性率が有意に上昇し, 特に関連のある問診項目があることを報告した(土田ら, 2019). 今回, 歯科医院での定期健診の項目と唾液潜血検査結果の関連について分析し, 今後の歯科保健指導に役立てることを目的とした.

【対象・方法】対象者:平成30年度に20歳以上の山形市民997名に参加を呼びかけ, 470名が参加した(参加率47.1%). 参加者内訳:男性90名, 女性380名, 平均年齢67.8歳(29歳-88歳). 検査方法:ペリオスクリーン®(サンスター)を用いた唾液潜血検査, 自記式問診票の記入. 統計解析:唾液潜血検査と自記式問診票で質問した歯科医院での定期健診の有無と受診頻度(12か月ごと, 6か月ごと, 3か月ごと, 1か月ごと, 治療中)の関連を統計ソフトR/EZRを用いて分析し $P<0.05$ を統計学的に有意とした. ただし, 1か月ごとの受診と治療中は歯科疾患で治療をしている可能性が高いと考えられるため, 今回の分析からは除いた.

【結果】歯科医院での定期健診の有無と唾液潜血検査結果の関連については, 定期健診ありの人は定期健診なしの人に比べて陽性率が有意に低かった.(Fisherの正確検定 $P=0.000459$ )(図1). 定期健診なしの群と受診頻度(12か月ごと, 6か月ごと, 3か月ごと)の各群について唾液潜血検査結果に関連があるか解析を行うと, 定期健診なしの群と12か月ごとと受診している群との間に有意差はみられなかった(Fisherの正確検定). しかし, 定期健診なしの群に比べて6か月ごと, 3か月ごとと受診している群は陽性率が有意に低く(Fisherの正確検定 $P=0.00001038$ ,  $P=0.02712$ ), 受診頻度が短くなるほど陽性率は有意に低くなった(Cochran-Armitage傾向検定 $P=0.0014$ )(図2).



【結論】定期健診ありの人は定期健診なしの人に比べて唾液潜血検査の陽性率が有意に低かった. 定期健診なしと比べて6か月ごと, 3か月ごとに定期健診をしている人は唾液潜血検査の陽性率が有意に低く, 年2回の歯科医院での定期健診は歯周病予防に有効であることが示唆された.

▶R 2 年度

第 47 回山形県公衆衛生学会発表(歯周病に関すること)のまとめ

| テーマ | 山形市民を対象とした唾液潜血検査と歯科定期受診の関連                                                                                   |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内容  | 今後の歯科保健指導に役立てることを目的として、令和元年度の分析の対象となった市民 470 名について、唾液潜血検査の結果と歯科定期健診の有無や受診頻度（12 か月ごと、6 か月ごと、3 か月ごと）との関連を分析した。 |
| 結果  | 年 2 回の歯科医院での定期健診は、歯周病予防に有効であることが示唆された。                                                                       |

《分析結果の詳細》

- ・「定期健診あり」の人は「定期健診なし」の人に比べて、唾液潜血検査の陽性率が有意に低かった。
- ・「定期健診なし」と比べて、「6 か月ごと、3 か月ごとに定期健診をしている人」は唾液潜血検査の陽性率が有意に低く、受診頻度が短くなるほど陽性率は有意に低くなった。